

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和3年11月15日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14	(依頼数) 17
地域アンケート	(回答数) 4	

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870300690
事業所名	グループホーム丸の内はとぼっぼ
(ユニット名)	白鳩
記入者(管理者)	
氏名	兵頭朋子
自己評価作成日	令和3年 10月 1日

【事業所理念】※事業所記入 お一人おひとりがその人らしく生活ができるよう支援します。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ・理念を白鳩便りでお知らせするようにしました。 ・コロナで出来なかった地域との合同の避難訓練に参加しました。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 家族には、ユニットごとに毎月、写真を載せた便りを作成して行事や日頃の様子を報告している。また、1日1行事のの様子を書き、毎月送付している。 近所にある幼稚園から、園児が収穫したさつま芋の差し入れがあった。利用者から「お礼がしたい」と提案があり、折り紙でコマを50個ほど作り、利用者と職員で幼稚園に届けた。 入居時や介護計画更新時に、センター方式の私ができないことが私ができることと私ができないことシートを作成して現状把握を行っている。仏壇を持ち込んでいる利用者は、毎朝、自分でお茶を供えており、職員はお茶を用意してサポートしている。 「家に帰りたい」と希望する利用者には、時をみて職員と一緒に戻るような機会をつくっている。
--	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の会話や行動、お顔の表情などから、意向の把握に努めて希望に副えられるように努めています。	◎		◎	入居時、本人の思いや希望を聞いて、センター方式の私の姿と気持ちシートに、利用者の言葉をそのまま記入している。シートは、定期的に個々の担当職員が更新している。 介護計画作成前には、日々の関わりの中から知り得た情報をもとにして、職員全員が9マスシート(支援を必要としていることにつなげるためのシート)を作成している。そのシートは、計画作成担当者がまとめている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	その時の状態や、お顔の表情などから ご本人の立場に立った視点で考えるようにしています。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	ご家族や友人などご本人の思いについて話す機会あり、ケアプランにも盛り込んでいます。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	会話や行動の中から記録に残し、情報共有するようにしています。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	スタッフの思い込みを廃し、ご本人の思いに立った対応に心掛けていますが決めつけがないとはいえません。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	出来るだけ聞くようにしていますが、情報提供してもらえないご家族もおられます。			○	入居時、家族に私の生活シートや私の暮らし方シートにこれまでの生活歴や職業、性格などについて記入してもらっている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	関りの中から現状の把握に努めています。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	全てではありませんが、関わりの中から態度・表情などで把握に努めています。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	ご本人の話の中、前後の行動・言葉などから把握に努めています。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	24時間シートに記録し、把握するように努めています。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	ご本人の視点で何を必要としているか探るようにはしていますが、職員の視点で検討になっている事があります。			◎	サービス担当者会議は、事前に聞き取った本人、家族からの意向と、職員全員が記入した9マスシートの情報をもとにして話し合っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ミーティング・9マスシートなどで検討しています。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	9マスシートやミーティングなどで課題を明らかにしています。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	思いをケアプランに入れてご家族にも協力をお願いしています。				サービス担当者会議時の内容をもとに、計画作成担当者が介護計画を作成している。 骨折した利用者について、医師からケアのアドバイスをもらい、計画に採り入れ支援している事例がある。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ご家族からアイデアを頂く場合もあります。(家に帰りたいと言われる方に仏壇を持って来られた事もあります)	◎		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	全介助の方、ホームで慣れ親しんだ暮らしというのは難しいですが、笑顔で生活して頂けるように努めています。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	全ての方ではありませんが、ご家族の協力を盛り込んだ内容にしている方もおられます。(コロナ禍で難しいですが)				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアプラン作成時、スタッフ全員に見てもらい、毎日の記録の中で確認しています。			○	新たに介護計画を作成した際には、職員全員に回覧している。介護計画は、各ユニットごとにカーデックスに挟み共有している。 介護計画の内容に番号を振り、24時間シート(介護記録)に実践した番号を記入している。その記録をもとに、退出職員が日単位で実践した番号に赤色で○をつけて記録している。 24時間シート(介護記録)に言葉、行動、エピソードなどを記録している。 口頭でやりとりすることが多く、記録はしていない。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日勤の終わりにケアプランに添った介助が出来たかどうかチェックしています。			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的な内容を個別に記録している。	○	24時間シートに記録しています。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	記録に残したり、職員で話す事もありますが、全ての記録は出来ていません。			x	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間に応じて見直し、骨折など必要に応じても見直ししています。			◎	ケアマネジャーが一覧表で期間を管理しており、6か月毎に見直しを行っている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月に1回のミーティングで現状確認を行っています。			○	月1回のミーティング時には、利用者全員について介護計画に関係なく日々の暮らしやケアについての現状確認を行っている。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院した場合などでホームでの生活をどうして行くか話し合い、新たな計画を作成している。			○	骨折などで状態変化があった場合には新たな計画を作成している。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的なミーティングをし、緊急案件などはヒヤリハットを作成して対策を話し合っています。			◎	月1回ミーティングを行い、ミーティングノートに記録している。緊急案件がある場合には、その日の勤務職員で話し合い、決定事項は申し送りノート(伝達ノート)に記入している。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	お茶の時間を利用して言いやすい雰囲気作りを努めています(今はミーティングのみですが)。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	月末に、何回かに分けて行っていますが、全ての職員の参加は難しいです。(特に夜勤スタッフ)。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	申し送りノートやミーティングノートの回覧により、伝えていきます。			△	参加できなかった職員は、ミーティングノートを確認してサインをするしくみをつくっているが、サインが揃ったかどうかは確認していない。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	出勤時に申し送りノートを確認するようにしています。			◎	家族からの伝言は、申し送りノート(伝達ノート)に記入したり、24時間シート(介護記録)にメモ用紙を貼ったりして伝達している。申し送りノートは、確認した職員はサインするしくみをつくっている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	口頭で送ったり申し送りノートを活用しています。ご家族の言葉は24時間シートで色を替えて記録しています。		◎			
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	希望を言われる方は把握に努めていますが、叶えてあげられていません。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	出来る方・出来る方方にはその方に応じて、テレビやおやつを選ぶなど自己決定してもらった機会を作っていますが、難しい方には出来ていません。			◎		
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	ご本人がご自分で決めたりする時もありますが、納得してもらえない支援は出来ていません。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	入浴などほとんどの方介助が必要なので、一人ひとりのペースや習慣など優先出来ていません。排泄表を見ながらトイレに誘導、どうしても立ってくれない時は時間を空けてお連れしています。					
		e	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	日々の関りの中で、生き生きとした言葉が出るよう雰囲気作りを努めています。			○		食器を洗うことや洗濯物をたたむことが役割の利用者に「お願いできますか」と言葉をかけ、「いつもありがとうございます」助かりますとお礼を伝えている。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	言葉で言われない方でも表情や態度で反応をキャッチしていますが、ご本人の意向に添った暮らしが出来ていない場合もあります。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	常に意識しながら行動していますが、馴れ馴れしい言葉やきつい口調になる事があります。	◎	○	△	9月の「認知症の人との関わり」の内部研修時に、人権や尊厳について学んでいるが、時々、職員の話や言葉遣いが気になるような場面も見られるようだ。職員個々や職員同士で言葉遣いについてチェックするなどして、常に意識して行動できるようしくみをつくってはどうか。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であらさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	さりげない言葉かけに努めていますが、マスクで聞こえにくいようで耳が遠い方は、どうしても大きい声になってしまいます。			◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	不安や羞恥心に配慮しながら介助を行っています。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室はその方の家と思い、出入りは必ず声掛けするように努めています。				◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解して遵守しています。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に向けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	関りの中で常に「ありがとう」と言う感謝の気持ちを伝えるように心掛けています。				利用者同士の関係を考慮して、順序を決めている。仲の良い人同士で話ができるようにしたり、トラブルが起こりそうになったら、職員が間に入ってフォローしたりしている。食前に、「ご飯よ」と居室にいる人に声をかけてあげたり、食後に、他利用者の分も下膳してあげたりするような利用者がいる。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	一緒に暮らす上で、互いに助け合ってよりよい生活となる事を理解しています。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	お互い話をしたり、支えあったり利用者同士が良好な関係となるようテーブル席を考えています。			○		
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	言葉がきつくなったり、相手の方が気分を害された時などはさりげなくスタッフが介入しています。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ご家族からの情報、ご本人との話の中から把握に努めていますが全てではありません。				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	把握に努めるようにしていますが、情報がない場合もあり把握出来て無い事もあります。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	今はコロナ禍で出ていません。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	×	面会時間を決めずに、自室や応接室などで自由に面会してもらっていましたが、現在はコロナで無理です。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	コロナで自由に外出出来ないため支援出来ていません。	△	○	○	週1~2回程度、玄関前に出て、ひなたぼっこや花の手入れができるよう支援している。 月1回程度、ドライブや季節の花(菜の花、チュウリップ、ツツジ、コスモスなど)をみに出かけられるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナで自由に外出出来ないため支援出来ていません。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	要介護5の方も、車から降りずのドライブや、車いすでのお散歩にお連れしています。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナで自由に外出出来ないため支援出来ていません。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	スタッフ間で行動の原因を話し合い、取り除けるようなケアに努めていますが、全ての方への対応は出来ていません。				入居時や介護計画更新時に、センター方式の私ができること私ができないことシートを作成して現状把握を行っている。 自室のモップがけや掃除機がけをする利用者があり、職員は声をかけたり、掃除用具を用意したりして続けられるように支援している。 仏壇を持ち込んでいる利用者は、毎朝、自分でお茶を供えており、職員はお茶を用意してサポートしている。 場所表示は、「洗面所」「トイレ」「脱衣場」など、大きく書いた紙を扉に貼っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	その方に応じて取り組んでいますが十分ではありません。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	なるべくしてもらうようにしていますが、出来て無い所もあります。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	把握するように努めていますが、全ての方ではありません。				食器を洗う、テーブルを拭く、洗濯物をたたむなど、家事を行うことを介護計画に採り入れて支援している。 夜、居間のカーテンを開めることが役割の利用者がいる。 「家に帰りたい」と希望する利用者には、時をみて職員と一緒に戻るような機会をつくっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	症状が進んでもその方に応じた楽しみを持てるようにしたいのですが、外出も思う様に出来ず出来ていません。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	コロナで地域に出かけられません。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	出来る方はご自分でしてもらっていて、把握するようにしています。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。 センター方式の私の暮らし方シートの情報(おしゃれ、色の好み欄)を参考にして、職員が衣類の買い物を代行する事例がある。 更衣時には、着る服を自分で選べるように支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	△	ご家族の協力が得られる方は服など好みに整えてもらっていますが、カットは訪問カットで短くカットしてもらっています。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたアドバイス等本人の気持ちにそって支援している。	○	声掛けや表情を見ながら支援に努めています。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	ご家族の協力を得ながら季節に合った服装を楽しんで頂ける様支援しています。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく声かけをしています。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	ご家族の協力が得られていないので、ほとんどの方はホームで訪問カットしてもらっています。行ける方は、お連れしています。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	訪問カットをしてもらい、本人らしさが保てるかわかりませんが似合う様に工夫しています			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解しています。				食材を注文して八百屋や魚屋から配達してもらっている。その他の食材は職員が買い物に行っている。献立は、その日の調理担当職員が決めている。時には、利用者に希望を聞くこともある。利用者は、調理や下膳、食器洗い、台拭きを行っており、その様子を便りに載せている。 旬の食材を使って調理をしている。正月には、おせちやお雑煮、ひな祭りにはちらし寿司、春には筍料理などを作っている。最近では、さつまいもの甘煮や栗おこわなどを作り喜ばれたようだ。その日の献立に魚を使用する時には、利用者に「塩焼きがいいか、煮付けがいいか」などと調理方法を聞くことがある。 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	一緒に出来る方には手伝ってもらっていますが、同じ方になってしまいます。買い物にはお連れ出来ていません。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	全ての方ではありませんがやりがいや、達成感につながっている方もおられます。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居時にアレルギーの有無、苦手な物を聞いて把握するようにしています。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	季節の旬の食材を取り入れ、残されている物から苦手なものに気付くようにしています。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりの工夫等)	○	その方の状態を職員間で話し合い、ミキサー食から刻み食に変更したり盛り付けにも工夫しています。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	軽い食器や、短い箸、ご飯の色がわかるように黒い色の食器などその方に応じて使用してもらっています。			評価困難	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	コロナで一緒に食べていませんが、お一人おひとりの様子は見守りサポートをしています。			評価困難	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	音やにおいを感じてもらえるよう介助時、その都度メニューを説明しています。	◎		評価困難	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	お一人おひとりの量の調節は行っています。水分摂取も嫌な気持ちにならずに飲んでいただけるような声掛けを行っています。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	特に水分の声掛け、どうしても摂取量が足りない方は記録に残し、食べれない方は栄養剤など摂っていただいています。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	同じ献立にならないようメニュー表に記入し、月に一度カロリー計算しています。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	野菜や魚は週3回購入、布巾やまな板などのハイター消毒、食器は洗った後食洗器を使用しています。賞味期限も確認しています。				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	理解して毎食後の声かけ、支援を行っています。				献立は、同じものが重ならないように、メニュー表を確認して立てている。 口腔ケア時に目視しており、異常があれば受診につなげている。本人が行う人については、本人に任せるケースがあり、訴えがあれば対応している。 自分が歯科受診時に教えてもらった方法などを伝えています。 介助で行っています。お人によってはポリドントされない方もおられます。 利用者の方を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等) 虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っています。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	痛みを訴えられる方は、歯科受診につなげられますが、全ての方の口腔状況は把握出来ていません。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	自分が歯科受診時に教えてもらった方法などを伝えています。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	介助で行っています。お人によってはポリドントされない方もおられます。				
		e	利用者の方を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	介助させてもらえる方は清潔を保てますが、させてもらえない方は清潔を保てていません。			評価困難	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っています。	○	ご家族に相談し、歯科受診等の対応を行っています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解しています。				ミーティング時に話し合ったり、その都度話し合ったりして支援している。 職員から「リハビリパンツが必要ではないか」という意見があり、本人と相談して、介護計画に、トイレ誘導をすることや、洗濯物を確認することなどについて採り入れ、必要性をみているような事例がある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解していて、野菜を食べてもらったり、水分を多く摂ってもらったり、運動したり、歩いてもらったりしています。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	介助の方はホワイトボードに記録して把握出来ていますが、自立の方は把握出来ていません。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	状態に応じて話し合い、その方にあった支援を行うようにしています。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	運動や水分など検討しています。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	ボードの記録を見ながら、又サインを見逃さない様にして、出なかつたら短時間でもう一度トイレにお連れするようになっています。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	御本人やご家族との話し合いは出来ていませんが報告はするようになっています。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	その方に応じて、また昼間と夜間で使い分けるようになっています。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	水分、食事量で取り組んでも自然排便がなければ下剤を服用してもらっています。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	見守りや介助が必要な方がほとんどなので、どうしても職員の都合になってしまいます。	◎		○	週3回、午前中の入浴を支援している。「一人で入浴したい」と希望する利用者には、脱衣所から声かけしたり、時々様子を見守りしたりしながら、安全に入浴できるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	全ての方ではありませんが、ご自分で出来る事は見守りをしながらご自分でしてもらっています。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	全介助以外の方は、出来る事を見極めて注意しながらその方にあった支援に努めています。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	理由をお聞きしたり、時間を置いてもう一度声を掛け、それでも拒む方は無理強いせず着替えただけでもしてもらっています。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	朝のバイタル確認、再バイタルで健康状態確認、入浴後も自室に帰られしらく出て来れない時は、様子を見に行くようにしています。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の記録や夜勤スタッフからの申し送りで把握に努めています。				薬剤を使用する人については、医師に相談しながら支援している。ふらつきなどがみられる場合は、医師と相談して薬剤の種類変更や減薬して様子を見ている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼間起きてもらう様にしています。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	なるべく薬剤に頼らない様支援しています。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自室のベッドやリビング、ソファ、和室など好きな場所で自由に休めるようになっています。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	携帯を持っている方は自由に話してもらったり、かかってきたらホームの電話で話をされたり、ハガキなどでお返を事書くよう支援しています。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけ、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	年賀状を書いてもらったり、学生さんからもらったお手紙の返事をかける方は考えて書いてもらったり、スタッフと一緒に内容を考えて書いてもらったりしています。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	子機を使って自室やリビングなど好きな場所で話せるよう配慮しています。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	電話やハガキで返信する様努めています。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	仕事をしている方もおられるので全ての方ではないけれど、願っています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解していますが認知があり、管理が難しい方は持っておられません。ご自分で管理出来る方は所持してもらっています。				/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につけている。	×	今はコロナなどで出来ていません。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	近くになく、コロナで出来ていません。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使うように支援している。	○	ご家族と相談しながら支援していますが、ご家族が本人に持たせない様にと言う方もおられます。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	ご家族と相談しながらお渡ししています。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に説明、月に一度報告しています。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	柔軟な支援は出来ていません。	◎		○	身内の葬儀に参列する際、身支度を手伝ったような事例がある。 幼馴染みの理髪店に通えるように、職員が送迎している事例がある。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	季節の花を植えたりしていますが、不審者の問題や、または今はコロナで気軽に出入りはしてもらっていません。	◎	◎	◎	玄関周りは、掃除が行き届き、利用者と職員が一緒に植えたパンジーのプランターを並べていた。 玄関前は階段とスロープ、手すりを設置している。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住みよさの心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそよような感じになっていないか等。)	○	リビングに本や雑誌、ソファなどを置いて家庭的な雰囲気作りしていますが、各居室では出来て無い方もいます。	◎	◎	評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎朝、出来る方は一緒に掃除、汚れたらその都度掃除、換気にも気を配っています。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に応じた飾りで季節感を感じてもらっています。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングの椅子やソファ、フロアの椅子、和室などに腰かけて一人になりながらも人の気配を感じてもらいながら思い思いに過ごしてもらっています。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	ドアやカーテンがあり、直接見えないようにしています。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	タンスや仏壇、iPadなど使い慣れた物を持って来られている方もいます。	◎		評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかったこと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレなど分かるようにしたり、また日めくりカレンダーで日にちが分かるようにしています。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	危険な物は置かないように、バット類などは不安にならないよう目につかないようにカーテンで隠すなどの工夫をしています。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に入るように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほつき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	新聞や雑誌、本などは置いていますが、危険と思われる物は置いていません。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられられない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	理解していますが、見守り出来ない事あり、転倒される方もおられるので、階段のドアの鍵を使用しています。コロナ禍の最中は玄関も施錠しました。	◎	○	○	日中は、玄関やユニットの入口に鍵をかけていない。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時に、玄関に鍵をかけないのことで外出される危険性もある事を伝えています。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけるなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関は鍵をかけませんが、階段にドアセンサーを設置し、荷物を持っている方や季節でお墓参りなど外出傾向にある方の把握に努めています。				
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	△	大体把握しています。入居時にお聞きするようにしていますが、全ては出来ていません。				/
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日のバイタルチェックや体調の変化などを記録に残しています。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係性を築き、重症化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	看護職に相談し、必要に応じてクリニック報告・受診などにつなげています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	希望する方は、ご家族の協力を得ながら今までの医療機関受診出来るように支援しています。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	お互い報告し、適切な医療を受けられるよう支援しています。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院も出来るだけご家族にお願いして、ホームでの状態も報告、受診結果も報告してもらっています。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	受診時や入院時情報提供など職員が行っています。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	今はコロナで面会が出来ないため病院から電話で情報をもらっています。以前はお見舞いに行き情報をもったりカンファレンスに参加していました。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	日頃からの関係作りは出来ていませんが、お見舞い時やカンファレンスに参加するようにしています。(今はコロナでお見舞いにも行く事が出来ません)				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	各ユニットに看護師をそれぞれ配置していて、看護師やかかりつけ医に相談しています。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	気軽ではありませんが、医療連携でクリニックや看護師に相談出来る体制があります。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	バイタル・申し送りなどでその日の状態や変化を見逃さないように気を配り、変化に応じてクリニックへ報告し指示を仰ぐようにしています。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	服薬ファイル作成していつでも確認出来るように皆で情報の共有しています。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	一人一人薬をケースに入れて、服用時も名前を呼び確認しながら手渡し、服薬確認、ケースを戻す時も飲み忘れがないか確認しています。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬の変更があった時は状態の変化がないか気を配り、副作用などを感じた時は看護師に相談し、クリニックへ報告しています。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態の変化を記録に残して、必要時報告しています。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に重度化した場合の希望を聞き、ホームでの出来る事を伝え、状態の変化に応じて話し合うようにして、みんなで情報を共有するようにしています。				入居時に事業所でできる支援について説明を行っている。その後は、状態変化時に医師や家族と話し合い方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人(無理な場合は家族)・家族の希望を伝えてかかりつけ医とホームでの生活が続けられるかどうか話し合うようにし、方針を共有するようにしています。	○	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	△	ホームで話し合っても重度化されてきた時、職員の気持ちや力量を確認しながらさせてもらっています。結果的に看取りになる事もあります。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	出来る事、出来ない事を説明して、ご家族の協力が無くては難しい事も伝え、理解をもらっています。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	△	連携は図っていますが、ご家族と共にという体制は整っていません。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	負担のないように関わってもらいご家族の精神面での支えになれるよう配慮していますが、入居になってからの関りの方もおられるので難しいところもあります。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	コロナのため研修にあまり参加出来ませんが、参加したスタッフから情報をもらい学んでいます。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	マニュアルがあり、外出を控えたり、日頃から手洗いうがい、またシフト変更などの対策を行っています。訓練は行えていません				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	県・保健所からのメールで情報届き、必要時ホームで共有しています。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	県・保健所からのメールで情報を確認し、必要時ホームで共有しています。				
		e	職員は手洗いうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は手洗いうがいは出来ていますが、来訪者は消毒のみです。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	毎月お手紙や面会時に、良い事も悪い事もお伝えして一緒に共有し、アドバイスを頂いて一緒に支えて行く関係を築くようにしています。				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 ユニットごとに毎月、写真を載せた便りを作成して行事や日頃の様子を報告している。また、1日1日暮らしの様子を書き、毎月送付している。 運営推進会議で、行事や設備改修(トイレの水漏れの修理、食洗機の修理、炊飯器の購入など)、職員の入退職について報告している。運営推進会議の議事録は請求書と一緒に送付している。 家族来訪時には、職員から声をかけ近況報告を行い、意見や要望を聞いている。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	自室や応接室で自由に出来ていましたが、今年はコロナで面会禁止にさせてもらっています。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	コロナ以前は外出や行事と一緒に参加してもらっていましたが、今はコロナ禍で出来ていません。	○		◎		◎
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月日々の暮らしの様子や手紙を送付、来訪時にも報告しています。	◎				◎
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	報告を行うようにしていますが、コロナでゆっくり話せていない点もあります。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ご本人の状態を説明、これまでの関係をお聞きした上でより良い関係を築いていけるよう気を配っていますが、ご家族がご本人の状態を理解されて無い事もあります。					
		g	事業所の運営上の事務や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事、設備改修、職員の異動など白鳩便りや運営推進会議などで報告するようにしています。	◎				◎
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事(羊焼きや外食)などで家族の方に来て頂き交流が図られるようにしていましたが、今はコロナ禍で出来ていません。					
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	訪問時に、起こり得るリスクに対しての説明、対応策をご家族に話す様に努めています。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	訪問時に状態報告をして不安な事や思いを言って頂ける様な関係作りを努めていますが、今は面会も禁止で気軽にという状態ではありません。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	変更時説明して、同意を得るように、又、解約の時も納得して頂けるように努めています。				/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	ホームでの共同生活やお世話が難しくなった場合、状態を説明してご家族と相談しながら、納得してもらえるような退去先に移れる様支援をしています。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	介護保険の変更時も説明文送付して、同意を得られる様努めています。					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	設立段階時に職員はまだいなかったのではありません。		◎		近所にある幼稚園から、園児が収穫したさつまいもの差し入れがあった。利用者から「おれがしたい」と提案があり、折り紙でコマを50個ほど作り、利用者と職員で幼稚園に届けた。 地域にある教会と交流があり、11月の収穫祭には手作りのカードやリンゴを届けてくれた。 地元の中学校や水産高校との交流を継続しており、利用者から暑中見舞いや年賀状を出して交流を深めている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	散歩時の挨拶や、自治会に入って出来るだけ清掃や地域の行事などに参加する様に努めていますがコロナ禍で出来ていません。		○	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	地震後様子を見に来てくれる方もおられますし、五月人形を飾って下さいと言われる方もおられます。					
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	知人や友人が遊びに来てくれていましたが、今はコロナで出来ていません。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	自治会の順番でホームも班長を務め、回覧板や広報配り、会費集めなどをしています。羊焼きの時などは、お誘いしたり料理を配ったりしていますが、日常的ではなく今はコロナで出来ていません。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実に貢献することを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	地域の方も高齢になってこれ、以前は学生さんも来てくれていましたが、今はコロナで出来ていません。					
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	今はコロナで難しいですが、知人・友人に来て頂いたり、お友達の理髪店にお連れしておしゃべりされたりしています。					
		h	地域の人たちや周辺地域の施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	美容室の訪問カット、野菜や魚などの訪問販売を利用させてもらっています。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	利用者も何名か、また、ご家族・地域の方にも参加してもらっています。	○		○	利用者、家族、自治会長、民生委員、他介護事業所職員が参加している。感染症対策のため、7・9月のみメンバーに活動状況報告書を送付して、感想などをもらった。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価の後の目標達成計画の取り組みの説明など報告しています。			○	活動や事故事例などについて報告している。外部評価実施後には、評価結果と目標達成計画内容を口頭で報告している。
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	頂いた意見を生かせるようにしています。		◎	○	他介護事業所職員から、近場の外出先について教えてもらい支援に採り入れ、会議で報告したような事例がある。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	奇数月の第三金曜日と決めて覚えて頂ける様にし、また案内のハガキも出しています。			○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	会議報告は市へ提出して、ご家族・参加者へも送付しています。				
IVより良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	取り組むように努めていますが、身体介護中心になっていて出来ないところもあります。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	リビングに掲げてあり、毎月のホーム便りに入れて分かってもらえるよう努めています。	○	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	必要な研修は受けられるようになっています。				
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	研修予定はしていますが、コロナで予定通りには行われていません。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	個々の努力や給与などの把握は出来ていません。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	参加出来ませんが、人手不足で余裕がなくコロナ禍で難しい事が多いです。				法人主催の食事会を行なっていたが、感染症対策のため、昨年度は、食事会の代わりにお弁当の差し入れがあった。年に数回、法人から職員に、ドーナツ、アイスクリーム、ぜんざいなどの差し入れがある。職員が多くが人手不足を感じており、そのことが職員のストレスとなっている現状にある。法人とも話し合い、相談しながら環境整備に取り組んでほしい。
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	この1年特にコロナに対してストレスが増加しています		◎	○	△
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	全てに関しては理解出来ないかもしれませんが、意識するよう心がけ月に1度のミーティングでも確認 言葉かけや対応について気をつけるように努めています。				
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	常に話し合ったりする機会を持っていますが、全ての職員ではありません。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待に結びつくような声掛け、対応に気付けば互いに注意するように努めています。				3月に高齢者虐待・身体拘束についての外部研修に、管理者とリーダーが参加し、ミーティング時にその内容を周知している。不適切なケアやあざなどがみられた場合、職員は、管理者に報告することと認識している。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	対応に目を向けてストレスや疲労が影響している事に気付く事がります。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	本人や他人居者の命にかかわる時以外、「緊急やむを得ない」とはいえない事を理解しています。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	利用者お一人お一人の状況により、何が拘束にあたるのかを話し合い、お互いの言葉かけも気を付けるようにしています。				
		c	家族等から拘束や施設等の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	拘束しないための危険もある事を説明し理解してもらえるよう努めています。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	今までに成年後見制度利用した方もおりましたが、制度の違いまでは理解出来ていません。研修の機会があれば参加するようにしています。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	必要と思われる方やその親族に情報提供に努めています。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	今までに司法書士、弁護士等につなげた事があります。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	急変時の対応で年に1回救命救急の講習を受けています。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	急変時の対応で年に1回救命救急の講習を受けています。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットに記録してスタッフ間で情報共有し、再発防止に努めています。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	月に1度のミーティングで状態や、考えられるリスクや危険について検討して対策を考えています。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルはありませんが、苦情としてご意見をいただいたときは、職員で共有し対応を検討しています。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	苦情で市への報告事例はありませんが、知らせていただいた思いに対応し、対応出来ない時は理由を説明させていただいています。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	入居者の方の状態を理解していただく様に努め、回答させていただいています。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	スタッフに直接言って貰ったり、運営推進会議に参加してもらったり、介護相談員さんが来られた時に話を聞いてもらっています。(今はコロナで介護相談はしていません)			○	3名程度が運営推進会議に参加している。また、日々の中で聞いており、利用者からは、洗濯物を干す時に、「洗濯バサミが使いにくい」「バスマットが古くなっているので交換して欲しい」などの要望があり、買い替えたような事例がある。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議、面会時や電話や手紙などで要望を伝えてもらえる様働きかけています。	◎		○	電話や来訪時に聞いている。家族より、居室の壁面に「写真をたくさん飾りたい」と希望があった際には、大き目のコルクボードを用意した。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	お手紙などでいつも何かありましたらお知らせくださいとお伝えしていますが、公共の窓口の情報提供は行っていません。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は現場に来て、職員の意見を聞く機会があります。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員一人一人の意見・提案に耳を傾けてくれ、利用者本位の支援が出来るように検討してもらっています。			○	日々の中やミーティング時に聴いている。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	毎年全ての職員で自己評価に取り組んでいます。				外部評価実施後には、評価結果と目標達成計画の内容を口頭で報告している。モニターをしてもう取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	自己評価で現状の確認は出来ませんが、その先の意識統一や学習の機会として活かしています。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	言っていた事に対して出来そうなことから1つずつ取り組むように努めています。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	報告はしていますが、モニターはお願い出来ていません。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	成果や取り組みを報告しています。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	様々な災害の発生を想定して訓練を行っていますが原子力災害は行っていません。マニュアルは作成していますが、周知は出来ていません。				1月と7月に事業所内で避難訓練を実施している。6月には、地域の防災訓練に、職員と全利用者で参加した。運営推進会議の折りに、備蓄や発電機について話題が挙がり話し合ったことがある。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	さまざまな時間帯を想定して計画していますが、夜勤帯は人数が少ないので夜間を想定する事が多いです。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備や避難経路を把握しています。備品などの点検も定期的に行っています。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	去年は計画していましたが、コロナで出来ませんでした。今年は6月に、自治会長さんから合同訓練の話を頂き参加させていただきました。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域住民の方も高齢化していて、難しい部分もありますが、他施設と話し合う機会もあります。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自 己 評 価	判 断 し た 理 由・ 根 拠	家 族 評 価	地 域 評 価	外 部 評 価	実 施 状 況 の 確 認 及 び 次 の ス テ ッ プ に 向 け て 期 待 し た い こ と
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	サポーター養成研修参加しましたが、自信も無く実現出来ていません。				地域の人からの入居相談等に、介護相談を受けることがある。さらに、地域のケア拠点として相談支援を行うような取り組みも工夫できないだろうか。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	支援を行うまでにはなっていませんが、自治会の総会で施設にと相談された事があります。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	地域の人たちが集う場所としては出来ていません。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	学生さんなどの受け入れ協力はしていますが、今はコロナで出来ていません。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	あまり出来ていませんが、出来る事に参加する様になっています。			△	